

4-6 海岸の現況(1) ～伊達海岸～

渡島東沿岸の現況特性は自然環境条件、利用の状況、海岸保全の現況等について把握しました。ここでまず、伊達海岸について、その概況を示します。

伊達市(伊達海岸)は、内浦(噴火)湾の東に面し、札幌市と函館市の間に位置し、平地が比較的広く、特に長流川流域では内陸まで平地が広がっています。気候は対馬暖流の影響により積雪が少なく、温暖で『北の湘南』といわれています。道内のほとんどの開拓地が屯田兵によるものに対し、本市は仙台の伊達の武士たちが開拓した歴史と伝統があるまちです。

海岸沿いにはJR室蘭本線、その背後には国道37号、北海道縦貫自動車道が走り、道南・道央を結ぶ交通の要衝となっています。産業は古くより農業・漁業を中心に発展してきました。農業は古くから寒地農業の確立を図り、恵まれた気象、土壌条件を活かした都市近郊型農業を確立してきました。漁業は内浦湾内の環境を生かし、漁港整備も進み、“採る漁業”から“育てる漁業”を推進し、ホタテ養殖を中心に、サケなどのふ化事業も定着しています。工業は、食料品製造業が多くを占めています。

本海岸は約17kmに及ぶ砂浜海岸と岬の崖海岸からなっています。最近10年間平均での年間汀線後退量は最大で約40cmであり、今後も侵食に対する注意が必要です。アルトリ岬の自然景観と海岸利用促進のための計画が検討されています。

市周辺には、昭和新山と有珠山そして洞爺国立公園があり、自然豊かな環境となっています。海岸保全施設は離岸堤、消波工・消波堤、そして突堤が整備されています。

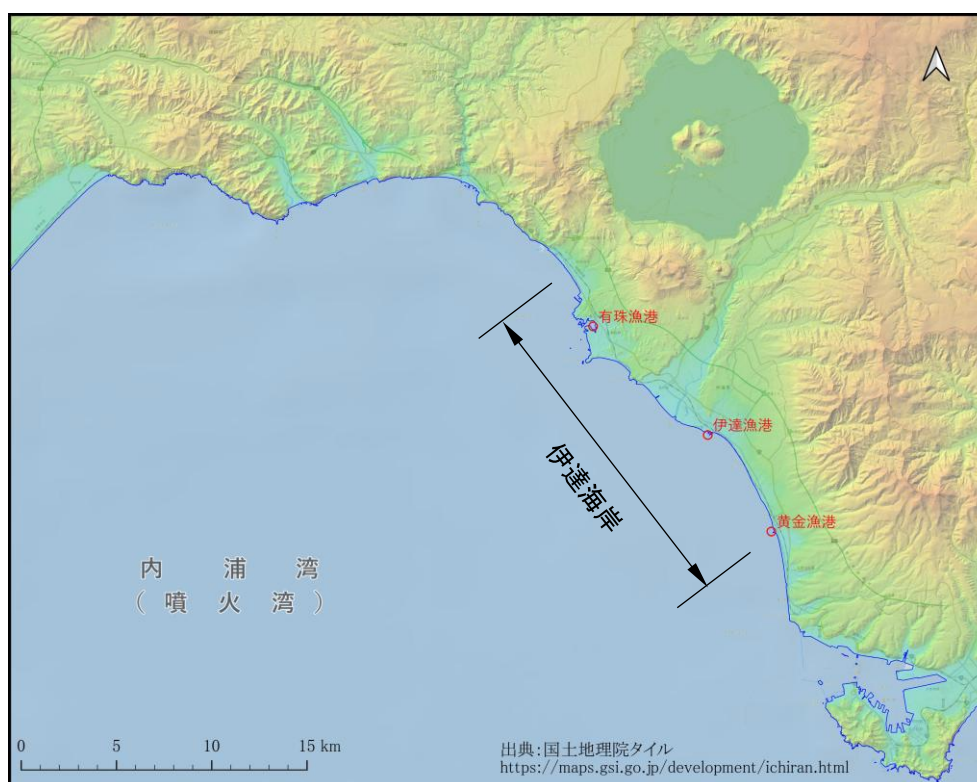


図-1 伊達海岸範囲図

自然豊かな伊達海岸



写真- 7

海岸景観が良好なアルトリ岬と隣接する伊達海水浴場



写真- 8 アルトリ岬



写真- 9 有珠海水浴場 (伊達市)

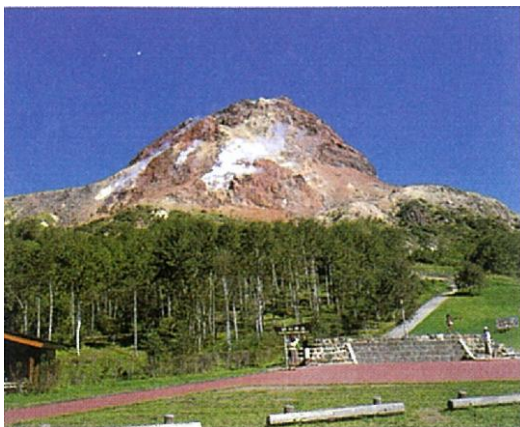


写真- 10 昭和新山



写真- 11 洞爺湖

4-7 海岸の現況 (2) ～長万部海岸～

次に、渡島東沿岸の湾奥部の長万部海岸についてその概況を示します。

長万部町(長万部海岸)は内浦湾の最奥部に位置し、大部分が丘陵地と山地からなり、平地は湾に沿って南北にのび、雪の少ない温暖な地域です。海岸沿いには国道5・37・230号、JR函館・室蘭本線が交差する道南・道央を結ぶ交通の拠点となっています。産業は古くより農業・漁業を中心に発展してきました。農業は気象条件や土地条件により酪農経営を主体としており、漁業は恵まれた内浦湾内の環境の中、漁港整備も進み、ホタテ養殖を中心にサケ・マス、毛ガニ、カレイ、ホッキなどの沿岸漁業が営まれています。工業は、食料品製造業が多くを占め、その他、基礎素材型の工業が主体となっています。

海岸の自然環境は約30kmに及ぶ砂浜海岸と北部の岩礁・海蝕崖からなり、砂浜は比較的幅が広く30~50m程ありますが、侵食の傾向もあり注意が必要です。静狩～礼文華地区の海蝕崖は「すぐれた自然地域」「静狩礼文華道自然環境保全地域」(北海道)、また、静狩のカシワ林と共に「特定植物群落」(環境庁)として指定された自然豊かな環境であり、湾内随一の景観を誇ります。

海岸保全施設は市街地区、中の沢、静狩地区に護岸・堤防、消波工が設置されています。漁港は現在、静狩、長万部、大中、国縫の4つがあり、長万部町の主要産業である漁業の拠点となっています。この内、国縫漁港は漂砂による港内・航路埋没や環境への影響、海岸侵食問題等の解決を目的に、平成5年度に完成した日本初の島式漁港です。完成後も近接海岸への影響について各種調査により検証を行っています。

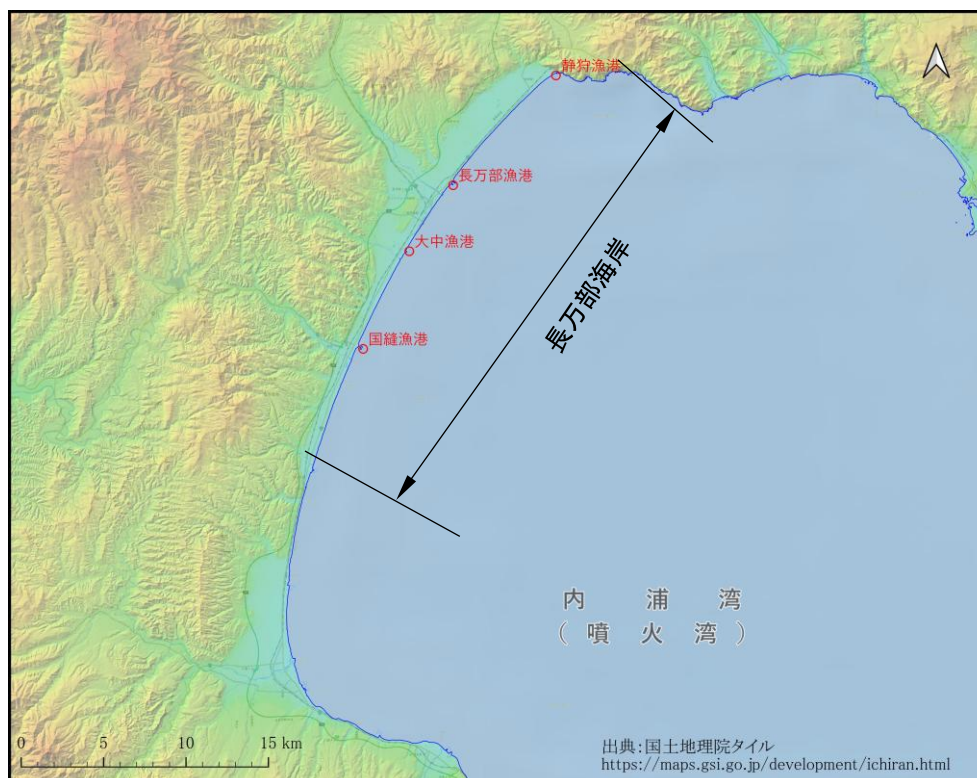


図-2 長万部海岸範囲図

自然豊かで、湾内随一の景観を誇る静狩地区と長万部海岸の砂浜



写真- 12 静狩地区の海岸景観

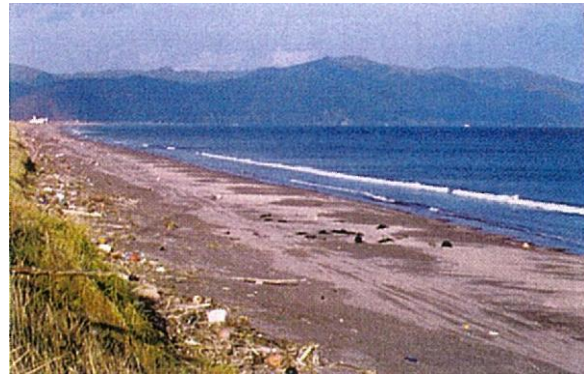


写真- 13 長万部海岸の砂浜

漂砂対策や海岸への影響に配慮して造られた日本初の島式漁港である国縫漁港



写真- 14 国縫漁港

現在、国縫漁港の周辺は海浜公園として、内浦湾を360度見渡せる展望台などが整備され、釣り場としても人気がある憩いの場となっている。



写真- 15 展望台



写真- 16 海浜公園